

## 2018 SUPER FORMULA JMS P.MU / CERUMO・INGING Race Report

### 第3戦 スポーツランド菅生

◆ 5月26日(土) <予選> 天候：晴れ | コース状況：ドライ

#1 石浦 宏明 8位 / #2 国本 雄資 4位



全日本スーパーフォーミュラ選手権の第3戦がスポーツランドSUGOで開催された。26日には公式予選が行われ、JMS P.MU / CERUMO・INGINGは2台揃ってQ3に進出。国本雄資が4位、石浦宏明は8位となった。

ここ数年、SUGOのスーパーフォーミュラはシーズン後半の秋開催だったが、今シーズンはシリーズのカレンダーが変わって初夏の開催になった。週末のSUGOは晴れの予報で、専有走行が行われた25日(金)は30℃超えの真夏日に。石浦はこのセッションでトップタイムをマーク。国本は11番手にとどまっていたが、翌26日(土)の午前中に行われたフリー走行では石浦とともにセッションの1-2を独占し、午後の予選に向けて2台揃っての上位グリッド獲得に期待が高まっていった。

公式予選は午後1時20分にQ1がスタート。セッション開始と同時に国本は先頭で、石浦は中団の位置でコースインし、まずは1セット目のミディアムタイヤでタイムアタックを行った。国本は計測3周目に1分6秒368を記録。石浦は5周目に1分5秒872のタイムを出していったんピットへ。残り時間が8分を切ったところで、2セット目のタイヤを装着し2回目のアタックへと向かった。国本は1セット目同様に計測3周目に1分5秒330と自己ベストタイムを更新してトップタイムをマーク。一方の石浦はセクター3でわずかにスピードが伸び悩んだものの、こちらも1分5秒488まで自己ベストタイムを更新。ここでコースアウト車両が出たためセッションは赤旗中断となり、残り時間2分20秒を残してセッションは再開されたが、この時点で国本がトップ、石浦も4番手と上位に付けていたため、2人はピットで待機。最終的にこの順位は変わらず、2台揃ってQ2進出となった。



ソフトタイヤでの戦いになる Q2 では、全車のタイムが一気にアップ。石浦が 1 分 4 秒 882 で 2 位、国本が 1 分 4 秒 901 で 3 位と、従来のコースレコードを上回るタイムで、揃って Q2 突破を果たした。Q3 は、国本がさらにセッティングを煮詰めてアタックに向かった結果、自己ベストタイムの更新はならなかったものの、3 位に 1000 分の 1 秒差の 4 番グリッドを獲得。石浦はアタックラップのセクター 2 までは全体ベストも狙えるペースだったが、SP アウトコーナーでスピン。なんとかコースサイドにぶつかることなく体勢を立て直したが、ここでアタックをあきらめピットに戻ることであり、8 番手に。2 人ともトップを狙える速さはあり、明日の決勝では国本が 2 列目から、石浦が 4 列目から表彰台を目指す。



### ドライバー／#1 石浦 宏明

「実は、Q2 までは SP と最終コーナーに対してまだ余力を残していました。(Q3 のアタックでは)SP の 1 つ目がうまく決まって、このままの勢いで最終コーナーまで抜けることができればポールポジションを獲得する手ごたえもあったのですが、行き過ぎてしまってスピンしました。クルマを当てずに終わったのは不幸中の幸いでした。昨日の練習走行時にもスピンをして、その際に当ててしまったパーツがダメージを受けていな

いか、メカニックの人が御殿場まで戻って調べてくれていました。そういうこともあって、今日はいい結果を出したかったですし、その自信もあっただけに悔しいですが、攻めた結果なのですっきりもしています。決勝ペースはいいと思うので、今日の失敗を明日のレースで取り返したいと思います」

### ドライバー／#2 国本 雄資

「SUGO はトラフィックも多いので、新品のミディアムタイヤ 2 本を、予選に向けて残しておきました。その 2 本を使った 1 セット目はトラフィックにかかってしまいましたが、2 セット目でまずまずのアタックができました。同じセットで Q2 に挑んで、ここでも本来のバランスには少し届いていなかったもので、Q3 に向けてはアジャストしていきました。それがあまりいい方向に進まずにタイムが更新できなかったのですが、過去 2 戦の予選ではあまりいいパフォーマンスを出せなかったことを振り返れば、今回はある程度のレベルまで戻ってこれたと感じています。4 番手からのスタートはいろいろチャンスもあると思うので、まずは自分ができることを精いっぱいやって決勝に臨みたいと思います」





### 監督/立川 祐路

「ドライバーとエンジニアがいろいろと話し合っ、SUGO に合うクルマを持ってこることができたので、フリー走行から調子が良かったです。そうはいつでもタイムは僅差で、特に Q3 はほんの少しのことで順位が変わる戦いなので、実際どうなるだろうと思っていた部分がありました。石浦は目いっぱいアタックした結果スピン。守っていてもトップが獲れる状況ではなかったので、残念ですがあれは攻めた結果と考えています。国本も、あまりタイム差の無い中で 4 番手というのは多少残念

ですが、2 台揃って明日は表彰台に立てるように頑張っていきたいと思います」

### 総監督/浜島 裕英

「2 台ともポールポジションを狙える力があっただけに残念ですが、どちらかという、これまで少し苦手意識のあった SUGO で 2 台揃って上の方にいるのはいい兆候です。予選では期待したレベルには届きませんでした、上昇気流は掴みかけているかと思っています。決勝ではさらに上を目指し、頑張ります」



### 【正式予選結果】(上位 10 台抜粋)

Pos.	No.	Driver	Type	Car	Q3	Q2	Q1
1	5	野尻 智紀	Honda HR-417E	DOCOMO DANDELION M5S SF14	R1' 04.694	1' 04.938	1' 05.654
2	18	小林 可夢偉	TOYOTA R14A	KCMG Elyse SF14	1' 04.941	1' 04.941	1' 05.659
3	20	平川 亮	TOYOTA R14A	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL SF14	1' 04.985	1' 05.021	1' 05.714
4	2	国本 雄資	TOYOTA R14A	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14	1' 04.986	R1' 04.901	1' 05.330
5	6	松下 信治	Honda HR-417E	DOCOMO DANDELION M6Y SF14	1' 05.048	R1' 04.842	1' 05.365
6	16	山本 尚貴	Honda HR-417E	TEAM MUGEN SF14	1' 05.313	1' 05.173	1' 05.372
7	36	中嶋 一貴	TOYOTA R14A	VANTELIN KOWA TOM'S SF14	1' 05.498	1' 05.041	1' 05.774
8	1	石浦 宏明	TOYOTA R14A	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14	1' 12.781	R1' 04.882	1' 05.488
9	15	D・ティクトム	Honda HR-417E	TEAM MUGEN SF14		1' 05.256	1' 05.755
10	4	山下 健太	TOYOTA R14A	ORIENTALBIO KONDO SF14		1' 05.286	1' 05.886